

被災地の宮城・牡鹿半島

作り手は、牡鹿半島で力業養殖業などを営んでいた女性十人ほど。震災後は仕事がなくなり、仮設住宅に閉

東日本大震災で被災した宮城県石巻市牡鹿半島の女性が手掛けるアクセサリーブランド「OCICA (オシカ)」の製品が、津市大門の津センターパレス地下1階で販売されている。幸運を呼ぶとされるドリームキャッチャー形のピアスなどで、県内初の扱い。ショップ担当者は「1つずつ手作りで、復興への思いが込められている」と話す。(宿谷紀子)

津でアクセサリー販売

シカの角と
漁網糸使い

シカの角と補修糸で作られたオシカのネックレスとピアス＝津市の津センターパレスで



じこもりがちになる人、の角と丈夫な漁網の補
が多かった。住民同士二〇一二年秋にオシカ 修糸を使い、アクセサ
の交流の場をつくり、が発足。牡鹿半島に多 リー作りを始めた。
わずかでも収入を得ら く生息するニホンジカ シカの角を円形に加

女性ら復興への思い込め

工し、周囲に細かな切
り込みを入れる。補修
糸を切り込みに沿って
丁寧に着くと、米国の
先住民がお守りとして
作るドリームキャッチ
ヤーの完成だ。すべて
手作業で、ネックレス
一つをつくるのに、二
時間かかる。

ネックレスは長さ七
十五センチで二千八百円、
ピアスは四・五センチで五
千八百円。それぞれ赤
と青、茶色の補修糸で
作られている。アクセ
サリーを扱っている
「津まん中ショップ」
では、オシカの活動を
紹介する本「OCICA
A 石巻 牡鹿半島小
さな漁村の物語」(千
五百円)も販売してい
る。
問い合わせは、ショ
ップを運営する津市N
POサポートセンター
＝電059(227)
5200＝へ。